

事業報告書（令和 7 年度）

事業名 岡山発の“創発”プロジェクト with 青少年～設立 15 周年を迎えて～

団体名 NPO 法人国際協力研究所・岡山 (ICOI) 担当者名 竹島 潤

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

◆「グローバル・ユース」

・ International Meeting Winter 2025 : 12 月 20 日 (土) 海外ゲスト 10 名と岡山&タイの中学生 25 名がオンライン参加し、全体会とブレイクアウト (グループ別) で英語交流を楽しんだ。学校や地元の話に加えて、"What is 'peace' for you?" のテーマでディスカッションも行った。



・ International Friendship Party in *Saidaiji* : 2 月 21 日 (土) 第 517 回西大寺会陽はだか祭りに係り、日本 (岡山) の伝統文化を鑑賞/参加するイベントを行った。ネパール、アメリカ、アイルランド、フィリピン、台湾などからの留学生や在住外国人の方々が西大寺観音院を訪問・参加、親睦を深めた。



・ ICOI 設立 15 周年記念大会講演会 : 11 月 15 日 (土) 岡山国際交流センターレセプションホールにて特別講演会を開催、参加者約 40 名が横井篤文先生 (岡山大副学長) より Planetary Citizenship (地球市民) の考え方や「自己成長×社会貢献」の視点で活動する大切さを学んだ。

◆「平和」 * 言及のみ (岡山市人権啓発事業)

・ 広島原爆展 in 岡山 : 6 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日) にかけて、岡山ユネスコ協会様や広島ピースボランティア様とも連携し、岡山県生涯学習センターにてパネル展、折り鶴コーナー、ビデオ視聴、講演会などを行った。2 日間でのべ 170 名が来場くださった。

◆「多文化共生」

・ 日越教育交流視察団訪問&受入事業 : 9/20 (土) ~ 9/24 (水) これまでの海外友好都市交流を生かし、ベトナム (ハノイ) の国立、私立両学校を訪問、交流した。また、12/14 (日) ~ 12/16 (火) には、教育関係者 4 名の視察受け入れを行い、次年度の青少年大使事業に繋げることを確認した。



◆「防災・減災」

・ 東日本大震災・原発事故「希望の牧場」現地活動 : 12/26 (金) ~ 12/29 (月) 福島県双葉郡浪江町などに行き、現地生活をされている牛飼いや旅館経営者のお話をお聞きしたり、震災遺構や平和メッセージを出し続けるお寺を訪問したりした。

◆「人権」

・ 拉致問題啓発関係者交流会 : 2 月 7 日 (土) 井原市で開催された拉致問題啓発舞台劇「めぐみへの誓い」に係る関係者交流会を岡山で開催、翌日の講演会 (女優・半井小絵氏) がより有意義なものになるよう盛り上げた。翌日 8 日 (日) には別途講演会も開催した。

2. ESDの視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
若者や市民が持続可能な地域や社会を創る上で、さまざまな課題や視点に気づくことができ、その解決や行動への動機づけを高められた。特に、今後の国際交流や平和推進運動に参加したいという声が事後アンケートなどで聞かれた。
② どのように学び合いを取り入れたか
インプットとして現地・現場に基づく情報提供を行い、その上で当事者や関係者のリアルな声から学び、多様な参加者が互いに情報・意見交換するようにした。この参加型の手法により、学びの当事者性も高められたと考える。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
青少年たちが実際に交流したり、現地に入ったりすることで、知識として学んできたことを行動へと繋げられるように工夫した。また、言語化することで自分の学びや実践を客観的に省察する機会となるようにした。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
事後アンケートや実施後の参加者がとる行動や話す内容から、ESD視点やアクションを起こす側になることへの積極性が高まっていると感じる。来年度以降、事業や活動に主体的に参加する青少年層が増えることを期待したい。
4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
ESD 世界会議の二度目を無事開催した岡山地域。その場でも感じたが、多様なステークホルダーが ESD for SDGs のコンセプトを大切に活動していると理解している。当 NPO の各種事業・活動のプロセスや事後において、今年度は他団体・機関様との交流も重視し、そこに新たな「創発」を狙った。来年度以降も、岡山地域や海外の連携相手と「学びの挑戦」を重ねていく所存だ。